

校長だより

令和5年4月25日
兵庫教育大学附属小・中学校
校長 富田 明徳

着任のご挨拶

○ はじめに

保護者の皆様への着任のご挨拶が遅くなり、大変申し訳ありません。私は4月から附属中学校長として着任いたしました富田でございます。



附属中学校の保護者の皆様には日頃から何かと学校運営にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

これまで毎日の生徒の登下校時や中学校研究発表会等の生徒の様子を見て感心しておりましたが、改めて始業式で生徒の前に立って語りかけた時に、生徒の聴く姿勢や行動を見て、附属中学校の先生方と生徒が取り組んできた教育の確かさを実感いたしました。私は今後もこの良さをより充実させるべく、微力を尽くしたいと考えております。

○ 年度末のこと

さて、この間の前校長の退任から私の着任まで、ご心配をおかけして大変申し訳ありませんでした。私と前校長は50歳を過ぎてから入学した兵庫教育大学大学院の同期でゼミも一緒でした。しかし今回の混乱の詳細については私からご説明できることはあまりありません。

ただ、同じ附属学校長として日頃から大学と接する中で、一つだけ言えることは、大学は、附属学校の運営について大変関心を持ち、多くの大学の先生方による日常的な附属教員への指導・助言及び学校評価へのご協力さらには予算面を含めた様々な点について、附属学校園への大きな支援と協力を努めているということです。私は、この間のコロナ禍における学校運営と同時進行の小学校改築工事に関する対応等の様々なやり取りを通して、そのことだけは間違いなく感じています。前校長の行動が、保護者の皆様に大学不信・附属中学校不信を生じさせたのであれば、大変残念に思います。

附属小・中学校としては、今後も地域の公立学校との最大の違いである、国立教育大学の附属としての強みを最大限に生かして、より良い教育をめざしてまいりたいと考えております。



○ 自己紹介

ご存じの方もおられると思いますが、私は、元々大阪の中学校社会科の教員です。その後大阪府教育委員会事務局勤務が長く、中学校長、市教育長を務めたのち、令和2年10月に附属小学校に着任いたしました。そしてこの度、小・中学校兼任校長として着任しました。

元々中学校教員ということで、小学校に初めて着任した時と比較して中学校には全く違和感はありません。また、小学校と中学校の校長が一人になったことにより生ずるメリットを、最大限に生かしながら附属学校のミッションとビジョンを踏まえて、保護者の皆様のご協力をいただきながらより良い学校をめざしてまいりたいと考えております。

4月12日には早速、小学校の先生方と中学校の先生方が自主的に教科ごとに集まって、今後の連携のスタートを切りました。これまでの大学の支援を受けた幼稚園・小学校・中学校の共同研究が一層充実することも期待しています。

○ 働き方改革

ご存じのように、教員不足は全国的な課題となっており、教員志願者が大きく減少している原因として、その働き方がブラックなためとも言われています。教職だけではなく運送関係等様々な職業において人間らしい働き方を実現しなければ、その業界は持続可能ではないと考えられています。

令和3年度初めに大学と附属学校は、前校長の提案により働き方改革ワーキンググループを設置し、検討を進めてきました。附属小学校では、学校行事のスリム化や年間約200名に及ぶ教育実習のより効率的で効果的な取組が求められ、2年間かけて取組に一定の成果をあげました。中学校では部活動が課題とされ、校内でも様々な検討がされてきたと思います。そのような中で、昨秋「是正勧告」を受け、ご存じのように3月には新聞報道もされました。今や段階的に取り組むということではなく、附属中学校としても法に反しない、待ったなしの対応に迫られているところです。

○ 部活動について

今回、部活動については、大変心苦しいところですが、「朝練習廃止及び原則午後5時下校」のお知らせをいたしました。保護者の方や生徒からは、なぜ事前に意見を聞いてくれなかったかというような声も届いています。

しかし、ご想像頂けると思いますが、年度末、年度初めの教員の勤務時間は大きく膨らみます。全国の中学校共通の課題でもあり、本校としては法的に前述のような待ったなしの対応が迫られている中で、県レベルで朝練を廃止している事例や加東市内でも部活を5時までとしている学校も出ていることも踏まえ、苦渋の選択をいたしました。

先週ある保護者の方から以下のような要望を受けました。「社会状況により部活動の短縮等の学校の姿勢は、やむを得ないし理解できる。しかし保護者としては生徒の不安や、やる気にも応えてあげたい。顧問の先生方から、効率的で効果的な練習方法や工夫について、生徒と是非一緒に考えてほしい。」というものです。私は、まさにこれが、今後の部活動改革のために、私たちが取り組むべき課題だと思えます。教員全体に伝え、より短時間で効果的な活動の工夫について生徒と一緒に考える機会を持つように伝えました。

なお、現在、大学が募集している部活動指導員については、大学生が22名、社会人が4名の方が手を挙げてくれており、思った以上の応募がありました。これまでより専門的な指導が可能となることも期待できると思えます。

今後、大学の協力を得て説明会や指導員の研修会も開催し、それぞれの部活動とのマッチングを図ってスタートしてまいりたいと思います。もうしばらくお待ちいただけたらと思います。今後ともご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後の取組に何卒ご理解とご協力を頂きますようお願い申し上げます。

